

編 集 後 記

サルヴァドール・ダリの最近作に面白い絵がある。

「秘法第九番 大便食システム」という題である。彼一流のブルージェルのバベルの塔になぞらえた塔があつて、その塔に何段か段状に人間が横向き、丁度、ロダンの考える人みたいな半分坐つたような形で並んでいる。よくみると、その人たちは、哲学的思考にふけつていゝわけではなさそうである。彼等の排泄する固形排泄物が下の段の人の口に入っている。

この絵を見た瞬間、私は思わず笑いこけてしまった。

モナリザにヒゲをつけた、あの皮肉屋のダリのことである。まさか霞ヶ浦附近の住民を皮肉つて画いたわけではなからうけれど、我々だつて結局同じことをやってしまつてゐる。この絵で、下の段の人が食べてゐるのは、上の段の人間の排泄物だけであるけれど、我々、つまり霞ヶ浦に水源を求めてゐる住民たちは、ダリ流の皮肉をもつてすれば、豚の排泄物も口にしていることになる。まさにマンガ的風景というより他ない。

高木純子さんが、あたつてくれることになりました。

会員への こまかい報告は 大和田房子さんが会報を出してくれることになりましたので、機関誌「桜川」の方は、会の経済を圧迫しない程度の速さで編集する予定です。

皆さんの機関誌です。どしどし原稿をお寄せ下さい。

(奥井登美子)

「桜川」第七号

発行日 昭和四十九年十月二十日

発行所 土浦の自然を守る会

編集人 奥井登美子

連絡先 土浦の自然を守る会

仮事務所(土浦市桜町)

電話・0357

印刷所

大石 膳 写 堂
土浦市荒川沖町